

# 令和元年度第1回総合教育会議

日 時：令和元年7月22日(月)13時～

場 所：幕別町教育委員会会議室  
北海道幕別清陵高等学校

1 開会挨拶

2 現地視察

北海道幕別清陵高等学校

3 議 案

(1) 小中一貫教育について

(2) アスリートと創るオリンピックの町創生事業について

4 その他

5 閉 会

## 【配布資料】

資料1 幕別町小中一貫教育の取組等について

資料2 アスリートと創るオリンピックの町創生事業一覧表

幕別町小中一貫教育の取組等について

資料1

( )内は令和元年5月1日現在の児童生徒数

学園名	まくべつ学園 (250人)	糠内学園 (43人)	さつない学園 (1,000人)	札内東学園 (706人)	ちゅうるい学園 (124人)
構成小中学校	幕別小学校 (157人) 幕別中学校 (93人)	糠内小学校 (23人) 明倫小学校 (6人) 糠内中学校 (14人)	古舞小学校 (18人) 途別小学校 (27人) 札内南小学校 (646人) 札内中学校 (309人)	白人小学校 (198人) 札内北小学校 (246人) 札内東中学校 (262人)	忠類小学校 (77人) 忠類中学校 (47人)
目指す姿	ふるさとに誇りをもつ子どもを育む幕別の小中一貫				
目指す子ども像	自ら進んで学ぶ子ども 思いやりのあるやさしい子ども 心身ともに健康でたくましい子ども	「郷土を愛し、理想の実現に向けて、努力し続ける南幕の児童・生徒」	「ふるさとを愛し たくましさ 身に付けた子ども」 ～3つの力を磨く義務教育9年間～ 自ら表現していく力 自ら学ぼうとする力 他とかかわり合う力	「ふるさとを愛し、夢や希望の実現に向けて、仲間と共に高め合う子ども」	「人を思いやり チャレンジ精神に満ち 自ら学んでいく ふるさと忠類を愛する子ども」
これまでの成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童会、生徒会の合同あいさつ運動や交流をきっかけに小中の隔てなく、子どもも教職員も距離が縮まった。</li> <li>まくべつ学園が示す「目指す子ども像」を中3が模範となり、小学生に様々な機会ですすことで、共通意識を持てるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫に向けたより具体的な構想を立て、計画に位置づけることができた。</li> <li>学園の経営計画が示されたことにより、学園を一体に捉えた教育活動が展開できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前授業を実施した教諭が中学校にいて、入学当初の不安が軽減された。</li> <li>合同挨拶運動の実施により、児童会と生徒会の交流や中学生の挨拶の良さを知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な取組において、小学生が中学校生活をイメージできるようになっており、不安の解消につながっている。</li> <li>中学校教諭による小学校での授業により、教員同士の指導方法の連携が図られるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各担当が主体性を発揮して事業を円滑に推進することができた。</li> <li>児童生徒のアンケート結果により中学校入学前の不安感が解消されていること。</li> </ul>
取組内容 (※は今年度から実施の授業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り入れ授業(英語、体育、算数、音楽※)</li> <li>9年間を見通した教育課程の編成</li> <li>総合的な学習の時間の指導計画作成</li> <li>部活動体験</li> <li>中学校一日体験授業</li> <li>児童会生徒会交流</li> <li>合同あいさつ運動</li> <li>職員交流</li> <li>合同クリーン作戦</li> <li>家庭や地域住民への情報発信</li> <li>PTA活動の連携・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り入れ授業(理科、音楽、外国語)</li> <li>9年間を見通した教育課程の編成</li> <li>中学校登校</li> <li>児童会生徒会の共同作業</li> <li>交流行事(学習発表会、運動会等)</li> <li>部活動少年団活動の連携</li> <li>一貫便りの発行</li> <li>地域の関係機関と連携した防犯教室の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り入れ授業(国語、体育、外国語、理科※)</li> <li>9年間を見通した教育課程の編成</li> <li>学習規律の作成</li> <li>学習会におけるサポート</li> <li>中学校一日体験授業</li> <li>合唱交流</li> <li>児童会生徒会合同あいさつ運動</li> <li>一貫掲示板の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り入れ授業(理科、体育、外国語)</li> <li>9年間を見通した教育課程の編成</li> <li>合同パークゴルフ授業</li> <li>合同学習発表会</li> <li>合同運動会</li> <li>児童会生徒会交流</li> <li>部活動少年団交流</li> <li>合同クリーン作戦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り入れ授業(体育、外国語)</li> <li>9年間を見通した教育課程の編成</li> <li>年間カリキュラム作成</li> <li>相互の授業参観</li> <li>町内清掃活動</li> <li>一貫便り発行</li> <li>一貫掲示板の設置</li> </ul>

## 幕別町小中一貫教育について

### 幕別町が目指す小中一貫教育等のポイント

～郷土を愛し 自ら学び 心豊かに生きる人～子どもをまん中に すべては子どもたちのために

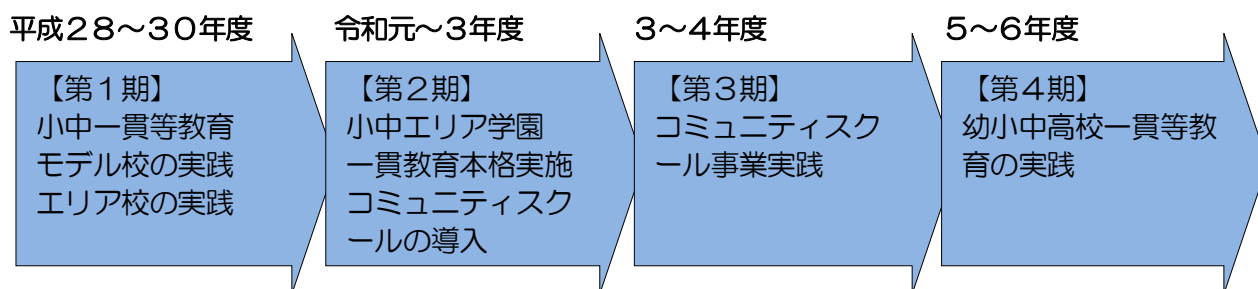
ふるさとに誇りをもつ子どもを育む幕別の一貫教育

～新たな学校文化を創る～

子どもが変わる(究極の目的) 教員が変わる (意識改革)  
学校が変わる(学校力向上) 保護者地域が変わる(地域創生)

◇小中学校が目指す子ども像を共有し、義務教育9年間の連続した見取りと系統的な指導により、児童生徒一人一人の可能性を最大限に広げます。

\*小中学校の一貫教育等から着手し、将来的には地域家庭とともに進める幼小中高校等の幕別ならではの教育を創造します。



### ○ 一貫教育モデル学園における現状の成果と課題

平成30年度にまくべつ学園、札内東学園をモデル校として取組を行い、その成果と課題を検証したところ、次の点が挙げられている。

#### (1) 現状の成果

- ① 小中それぞれの先生が合同研修等と通じて、互いの顔を認識しコミュニケーションを気軽に取れるようになってきた。  
(小中間の意思疎通の高まり)
- ② 学園として何をしていくべきかの確認や、児童生徒の情報交流が進み、より具体的な引継ぎに繋がっている。  
(9年間を通して子どもを育てていくための基盤作成)
- ③ 児童生徒間の交流により子ども同士、教職員と子ども達の距離感が縮まった。  
(中1ギャップの緩和、中学生になることへの不安感の削減 等)
- ④ 乗入授業や教科担任制の導入により、子ども達の意欲の高まりとともに、小中互いの指導方法の連携強化や今後のルールの特通化に繋がる交流が図られた。

#### (2) 現状の課題

- ① 組織体制やその権限を明確にして、スピード感をもって進める必要がある。
- ② 9年間を見通した系統的、継続的カリキュラムの作成が急務。
- ③ 合同研修等のための時間の確保が難しい。
- ④ 地域住民への情報発信をより推進していくことが必要。
- ⑤ 教職員多忙感の解消のため、小中一貫を進める上での簡略や省略できることを見つけていくことが必要。
- ⑥ 兼務発令での保有免許と人事異動

# まくべつ学園

1 構成学校（幕別小学校・幕別中学校）

2 活動目標 「未来を力強く生きる 自立した子どもの育成」～9年間を見通した教育活動の創造～

3 まくべつ学園 組織体制

- 【役員】 ・学園長（中） ・副学園長（小） ・事務局長（小） ・事務局次長（中）  
 ・庶務会計事務（小） ・監査（中）  
 ・学習部長，副部長 ・生活部長，副部長 ・地域連携委員長，副委員長

※小中一貫コーディネーター（小中各1名）

- 【部会体制】 ・学習部（部長，副部長，部員④9名 ⑤8名）  
 ・生活部（部長，副部長，部員④8名 ⑤9名）  
 ・地域連携委員会（委員長，副委員長，委員④2名 ⑤2名）  
 ・特別支援委員会（特別支援担当）

4 各部の主な活動内容 ※年間活動計画（裏面参照）

(1) 学習部

- ① 基礎的・基本的な学力を身に付け，思考力・判断力・表現力を高める活動推進
- ② 話し合い活動，読書活動等により言語能力を高める活動の推進
- ③ 9年間を見通した学習活動・教育課程の検討・推進

(2) 生活部

- ① 思いやりのあるやさしい子ども，自ら進んで学ぶ子ども，健康でたくましい子どもの育成
- ② 自己肯定感，適応能力を高める活動
- ③ 運動習慣の形成を通して体力の向上を図る交流活動
- ④ 生徒指導の連携と充実を図る交流学习

(3) 地域連携委員会

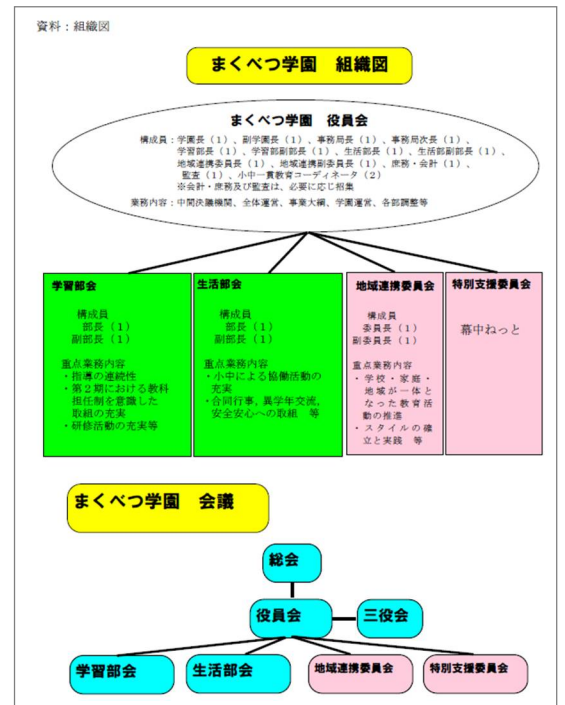
- ① 地域の人的・物的資源の活用を図り，子どものよりよい自己実現を目指す
- ② ふるさと教育，キャリア教育の充実
- ③ 地域とともにある学校づくりを目指す

(4) 特別支援委員会

- ① 幕中ねつとの機能を活かし，特別支援での一貫教育を進める

5 これまでの主な活動内容

- 4月19日 まくべつ学園総会 第1回 部会・委員会
- 4月22日 乗り入れ授業開始（英語）※ 数学：5/23～
- 5月13日 第2回 部会・委員会
- 5月27日 第1回 役員会議
- 5月29日 小学校運動会見学週間 開始



[まくべつ学園組織図]

# まくべつ学園 年間活動計画(案)

事務局・各部・委員会	ねらい	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>事務局</b>	①「つなぐ」・「協働」をキーワードに掲げ、小中一貫教育を推進する。 ②まくべつ学園経営計画の作成と各部との連絡調整 ③学園構想進行管理		第1回役員会		第2回役員会		第3回役員会		第4回役員会		第5回役員会		第6回役員会
<b>学習部</b>	① 基礎的・基本的な学力を身に付け、思考力・判断力・表現力を高める活動推進 ② 話し合い活動、読書活動等により言語能力を高める活動の推進 ③ 9年間を見通した学習活動・教育課程の検討・推進	乗り入れ授業		義務教育9年間の教育課程作成と検討 系統表と作業内容の確認				各学校において集約と整理			改善・手直し		
<b>生活部</b>	① 思いやりのあるやさしい子ども、自ら進んで学ぶ子ども、健康でたくましい子どもの育成 ② 自己肯定感、会適応能力を高める活動 ③ 運動習慣の形成を通して体力の向上を図る取組の充実 ④ 生徒指導の連携と充実を図る交流学習		漢字検定 英検	残食調査	学習規律・家庭学習に関する情報提供と交流、実施体制検討	説明とアンケート実施	集団下校練習 交通安全街頭啓発	部活動体験 合同職員体育	児童会生徒会合同会議		漢字検定 英検	改善・手直し	
<b>地域連携委員会</b>	①地域の人的・物的資源の活用を図り、子どものよりよい自己実現を目指す ②ふるさと教育、キャリア教育の充実		活用可能な地域の事業所、人材の情報収集、整理	体育祭運動会の取組交流				データベースの設計更新、活用方法の設計			周知・説明		
<b>特別支援委員会</b>	①幕中ねつとの機能を活かし、特別支援での一貫教育を進める。		幕中ねつと会議 (月一回程度)	小中合同あいさつ運動 毎月第2・4水曜日	体力テスト			全体計画作成			周知・説明		

まくべつ学園総会・第1回部会・委員会

まくべつ学園合同研究会

第2回各部会・委員会  
年間計画

## 糠内学園（糠内小・明倫小・糠内中）小中一貫教育の取組

### 具体的な取組

●糠内学園経営方針 ※第1回 糠内学園 学校運営協議会 にて承認済み

●糠内学園めざす児童・生徒像

『郷土を愛し、理想の実現に向けて、努力し続ける南幕の児童・生徒』



<糠内小中合同運動会（糠内小・糠内小・糠内保育所）>

<南幕小学校集合学習（糠内小・明倫小）糠内中出前授業>

### 推進体制

●糠内学園総会（平成31年度より 年1回開催）

●糠内学園部会（年数回実施 定期開催および臨時開催）

<役員>学園長、副学園長、事務局長、事務局次長、庶務・会計、各校推進委員、各部部长、監査

<部会体制>学習指導部、生徒指導部、研修部 ※各部 部長、副部长（それぞれ各校より1名）

### 今までの取組

●出前授業（中学校教員が小学生に）

●授業参観（教員交流）

●検定試験（英検・数検・漢検等）の実施

●一貫した学習のきまり検討

●一貫した生活のきまり検討

●児童・生徒会交流（小中合同ボランティア活動）

●スクールバス乗車マナー指導方針共有

●部活動体験



### 今までの取組を生かして

●出前授業・乗り入れ授業の体制整備

●学園における学習のきまり

●学園における生活のきまり

●学園各校の研修交流（授業スタイル確立：糠内学園スタンダード）

●一貫した教育課程策定に向けた研修

●一貫した学園いじめ防止基本方針策定

●学園研修テーマ策定



## 具体的な取組

### 小中一貫プラン

#### ●学園目標

- ・夢や希望に向かって学び続ける児童・生徒の育成【知】
- ・ふるさとに誇りを持ち共に助け合う児童・生徒の育成【徳】
- ・自分を信じ最後まで励み頑張る児童・生徒の育成【体】

#### ●活動がつながる

- ・交流行事（学習発表会・文化祭・運動会など）
- ・児童会生徒会の共同作業
- ・部活動少年団活動の連携 など

#### ●学びがつながる

- ・学習内容・指導方法の系統性（学園の研修テーマの設定など）
- ・家庭学習
- ・学習のきまり
- ・特色ある教育活動
- ・体力向上 など

#### ●生活がつながる

- ・自己有用感・自尊感情（キャリア教育、国際理解教育）
- ・生活のきまり など

#### ●教職員がつながる

- ・めざす子ども像の共有
- ・学力体力向上プランの共有
- ・乗り入れ授業
- ・学校評価 など

#### ●学校・地域・家庭がつながる

- ・PTAの連携
- ・地域ボランティア活用
- ・地域行事参加 など



## 成果

- 総会や部会会議にて、今までの取組を整理・再編・改善したことで、連携から一貫に向けた取組を全教職員が意識しはじめた。そのため、一貫に向けたより具体的な構想を立て、計画に位置付けることができた。
- 学園の経営計画が示されたことにより、学園を一体に捉えた教育活動が展開できるようになった。

## これから（課題）

- 今までの取組を生かし、小中の教育課程を一貫させる手立てを構築する必要がある。
- ねらいを基に小中をつなぐ活動をさらに実施する必要がある。

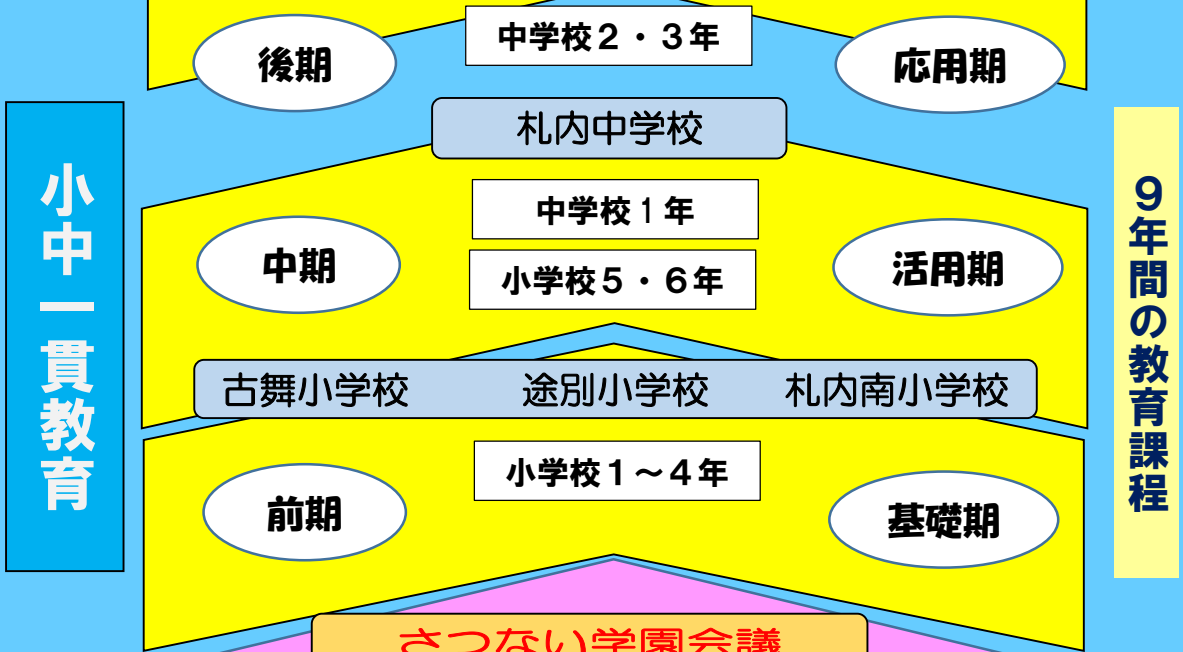
令和元年度「さつない学園」経営構造図

**幕別町教育目標**  
～郷土を愛し 自ら学び 心豊かに生きる人～  
子どもをまん中に すべては子どもたちのために

＜幕別町小中一貫教育のめざす姿 ふるさとに誇りをもつ子どもを育む幕別の一貫教育＞

＜さつない学園 めざす子どもの姿＞  
**『ふるさとを愛し たくましさを身に付けた子ども』**  
～3つの力を磨く義務教育9年間～  
自ら表現していく力  
自ら学ぼうとする力  
他とかかわり合う力

＜小中一貫教育9年間の学び（3カ年計画 1年次）＞  
学校と地域でつくる学び ～<sup>うた</sup>合唱でつながり育つ9年間～



- 「まなび」部**  
学習のつながりを大切にし、学力向上をめざす取組
- 「こころ」部**  
豊かな心、たくましい体を育む取組
- 「かかわり」部**  
子ども・教師・学校・家庭・地域のつながりを深める取組

**さつない学園学校運営協議会**

- 保護者
- 地域住民
- 関係諸団体

**コミュニティ・スクール**



# さつない学園だより

令和元年5月23日

第2号

発行 委員 村尾秀人

## 第1回さつない学園会議の内容報告

5月21日(火)に、第1回さつない学園会議を19名の先生方で開催しました。各部の具体的な活動の内容について担当より報告していただき、下記のように会議の中で確認しました。(青枠～まなび部、赤枠～こころ部、緑枠～かかわり部)



### 【中学校一日登校】

2月4日に札内中学校で行う。今までは「新入生説明会」という名称で午後から行っていたが、本年度は一日中学校で小6が過ごす。部活動にも体験・見学できる体制を整えることは可能か探る。

### 【出前授業】

出前授業担当が授業に行くわけではなく、出前授業の受け入れ・派遣の調整を行う。各学園の受け入れ体制と派遣呼びかけ(教科の調整)等を行う。

### 【学園歌声集会】

実施の時期は二学期頃を予定。学年合唱や全校合唱などの合唱交流を行う予定。今年度初めての取組のため、内容の検討が必要となっている。札内中学校は昨年度「歌声集会(30分程度)」を年4回実施した。

### 【学習規律】

小学校と中学校の情報交流が必要であることが確認された。学習規律について「さつない学園」として行えるものを探る。次回の部会までには、お互い持ち寄って交流し合うことになった。

### 【あいさつ運動】

児童会と生徒会が合同で行っているあいさつ運動について、その運動を拡大できないか探り、調整や運営を図る。「毎月〇日」というを決め方ではなく、月ごとに日程調整を図る。各校の窓口を確認できた。

### 【生活のきまり】

まずは、異校種の子どもの実態を理解する。そのためには、小学校と中学校の教職員同士の交流を増やす。「さつない学園」の目指す子ども像に通じる生活のきまりについて、実態に応じたものを子ども・保護者・教職員・地域で共有できるものを探る。

### 【検定・学習会】

札内中学校で行われる英語検定や、長期休業中の学習会について小学校と中学校の先生方がサポートに入ることなどの調整を図る。特に長期休業中の学習会については、お互いにどのように行うとよいか検討する。

### 【授業参観交流】

授業の参観交流について、受け入れの調整や各学校に出向く時の校内の調整を図る。校内の授業研究会についても連絡し、受け入れの体制を整える。

### 【事務】

事務職員としてできることを模索し、関わっていきたい。

### 【さつない学園教育実践交流会】

11月15日(金)に札内南小学校で開催予定の実践交流会について、企画・運営をする。授業公開4つで開閉会式は行わない。夏休み前に役割分担等を行う予定。

### 今後の予定

7月 9日(火) 第2回さつない学園会議

7月25日(木) さつない学園教職員研修会・交流会 9時~11時(札内中)

## 札内東学園資料（昨年度の課題と今年度の具体方策）

～白人小学校、札内北小学校、札内東中学校～

### 学習指導部

#### 【・昨年度の課題】と【→今年度の具体方策】

- ・9年間を見通した系統的、継続的カリキュラムの作成。  
→たとえば、一番交流が進んでいる英語科から手を付けたり、来年度とりあえず「教科グループ」を編成して、各教科ごとに作成にあたる
- ・学習常規の交流は、交流で終わってしまった。  
→3校で統一する前に、学校内で統一・共有化する。
- ・乗り入れ授業の日程調整がたいへんであった。  
→曜日を事前に固定するなど、年度当初から計画的に進める。  
⇒理科部会・体育部会内で管理職を通さず直接日程調整を行う。

### 生徒指導部

#### 【・昨年度の課題】と【→今年度の具体方策】

- ・教職員同士の打ち合わせを行う時間の確保や各種組織の再構築。  
→年3回の合同部会の開催。組織のスクラップアンドビルドを検討する。
- ・児童生徒指導・特別支援にかかわることについて交流を深める。  
→不登校への対応。それぞれどういう体制でどういう対応をとっているのか、どういう機関をつながっているのか。等  
⇒ノーテレビ・ノーゲームウィーク（読書強化週間）の新設。
- ・交流内容の周知。  
⇒縦のつながりから横のつながりへ。学園通信などで周知していく。

### 地域学習部

#### 【・昨年度の課題】と【→今年度の具体方策】

- ・地域人材の確保  
→各学校で実際に利用した人材について交流する。  
→学び隊と学校での学習サポートを統合して行うための条件整備について生涯学習課と検討し、効果的な取組になるような形作りを行う。  
⇒札内東学園の校区内でクリーン作戦を行い、地域の方と一緒にごみ拾いを行う。
- ・指導体制づくり、教育課程における位置づけの強化  
→9年間を通した「ふるさと学習」と「キャリア教育」の流れについて、実際に行える活動の例を掲載したパンフレット（教員向け試行版）を作成する。

一貫教育のめざす姿

# ふるさとに誇りをもつ子どもを育む幕別の一貫教育

一貫教育の目的

## 小中連携のもと「新たな学校文化」を創る

～小中学校がめざす子ども像を共有し、義務教育9年間の連続した見取りと系統的な指導により、児童生徒一人一人の可能性を最大限に広げる～

札内東学園  
めざす子ども像

ふるさを愛し、夢や希望の実現に向けて、  
仲間と共に 高め合う子ども

- まなび ▶ 自分の将来を描き、自ら学ぶ子ども
- こころ ▶ 仲間を信頼し、協力し合う子ども
- からだ ▶ 心身を鍛え、生命を尊ぶ子ども
- ふるさと ▶ ふるさと「まくべつ」に誇りをもつ子ども

札内東学園体制

心をつなぐ

学びをつなぐ

家庭・地域をつなぐ

生徒指導部

学習指導部

地域学習部

### 人間関係形成力の育成 体力向上

- ①自己肯定感を高めます。
- ②社会適応能力を高めます。
- ③運動習慣を形成します。

- ・生徒指導の連携と充実を図る交流学習
- ・特別支援教育の連携・充実
- ・生徒会、児童会活動の交流活動
- ・運動・スポーツの楽しさを実感できる取組

### 学力向上 言語活動の充実

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けます。
- ②思考力・判断力・表現力を高めます。
- ③言語能力を高めます。

- ・義務教育9年間の教育課程の作成
- ・中学校登校や小中学校間の乗り入れ授業
- ・学習規律や家庭学習の取組

### 地域連携

- ①地域資源の活用を図ります。

- ・総合的な学習の時間の指導計画の作成とふるさと学習やキャリア学習の連続性・整合性
- ・地域人材を活用した事例研究
- ・家庭や地域住民への情報発信
- ・PTA活動の連携・充実
- ・地域行事への参加
- ・地域とともにある学校づくり

## 信頼される小中一貫教育

未来社会に「自立と共生」の力をもって生き抜く子どもの育成  
家庭・学校・地域が一体となった教育の創造

# ふるさとに誇りをもつ子どもを育む幕別の一貫教育

## 幕別町小中一貫教育の目的

小中連携のもと「新たな学校文化」を創る  
～小中学校がめざす子ども像を共有し、義務教育9年間の連続した見取りと  
系統的な指導により児童生徒一人一人の可能性を最大限に広げる～

## ちゅうるい学園めざす子ども像

人を思いやり チャレンジ精神に満ち 自ら学んでいく ふるさと忠類を愛する子ども

### めざす子ども像スローガン

# 「じりつ」

3つの「じりつ」 「自律」 「自立」 「地立」

- (こころ) 礼儀と感謝の心もち 優しい気持ちで 人を思いやる忠類の子ども
- (からだ) 健康でたくましい体もち 根気強く チャレンジする忠類の子ども
- (あたま) 探究心もち 想像力をはたらかせ 自ら学ぶ忠類の子ども
- (ふるさと) 夢と誇りもち 仲間と未来を語る ふるさとを愛する忠類の子ども

## ちゅうるい学園組織体制

### 学びと家庭・地域をつなぐ 学習指導部



### 心と家庭・地域をつなぐ 生徒指導部

学力向上 言語活動の充実

- ① 知識・技能の習得
- ② 思考力・判断力・表現力向上
- ③ 言語能力の育成

○義務教育9年間の教育課程の作成 (ふるさと教育、キャリア教育の関連性)

○中学校登校や乗り入授業

○学習規律や家庭学習の取組

\*地域の人的・物的資源の活用

\*PTA 活動との連携

\*地域行事への参加

\*情報発信

人間関係形成力の育成 体力向上

- ① 自己肯定感の育成
- ② 社会適応能力の育成
- ③ 運動習慣の形成

○生徒指導の連携・充実に図る

○特別支援教育の連携・充実

○運動・スポーツの楽しさを実感できる取組

○生徒会、児童会活動の交流活動

ちゅうるい学園総会 ・ 研修会 ・ 役員会

## 信頼される小中一貫教育

○未来社会に「自立と共生」の力をもって生き抜く子どもの育成

○家庭・学校・地域が一体となった教育の創造

## ちゅうるい学園の事業推進及び課題等について

### 1 平成30年度事業の概要

担当	事業	時期	備考
事務局	小中合同研修会	8月17日	各部交流、事業計画
		12月25日	目指す子ども像、「学習規律」「生活の決まり」
	岐阜県白川郷学園視察	9月3日	4名参加
	地域連携研修講座	10月19日	講師：白川村社教主事 新谷さゆり氏
	忠類地区CS懇談会	1月8日	地域の課題等熟議
	目指す子ども像策定	12月25日	
	小中合同PTAレク、研修会	5月、6月	ミニバレー、研修会、懇親会
	小中合同PTA送別会	3月25日	
教務部	6年生の中学校登校	11月29日	中学校教師による乗り入れ授業を含む
		2月5日	中学校体験入学に併せて実施
	小中共通の「学習規律」作成	12月25日	
研修部	管内進路指導研究大会	11月16日	会場：忠類小、忠類中
指導部	花いっぱい運動	6月15日	小1、中2
	通学路の確認	12月25日	
保体部	小中合同「新体力テスト」	6月19日	小5～中3
	栄養教諭による食育授業	随時	各学年1回程度
	小学校スキー授業サポート	2月	中学校教員
	小中連携「器械運動」	3月7日	講師：村田准教授（帯畜大）
事務局	備品等の交流・共有	随時	

【成果】 小中一貫教育実施2年が経過し、各担当が主体性を発揮して事業を円滑に推進することができた。児童生徒のアンケート結果より、中学校入学前の不安等が解消されていること。

【課題】 ふるさと忠類に関する学習を系統立てて9年間で配置する教育課程の編成。ふるさと忠類を学習するに当たり、地域の教育力を一層活用したい。小中相互の乗り入れ授業等推進のため、教職員の交流を密にしたい。

### 2 令和元年度事業の概要

担当	事業	時期	備考
事務局	ちゅうるい学園総会	4月19日	
	小中合同研修会	8月16日	各部交流、事業推進
		12月25日	事業推進
	小中合同PTAレク	5月10日	ミニバレー、懇親会
	小中合同PTA	11月	ナウマン化石発掘50周年関連
	小中合同PTA送別会	3月	
	各部会年度反省	2月	今年度反省・次年度計画
教務部	6年生の中学校登校	10月8日	中学校教師による乗り入れ授業を含む
		11月19日	中学校教師による乗り入れ授業を含む
		2月4日	中学校体験入学に併せて実施
	小学校への乗り入れ授業	随時	英語、保健体育
	特別支援学級交流	随時	次年度受け入れに向けて
	学力向上に向けた取組	随時	合同漢検年3回、合同英検年2回
研修部	ちゅうるい学園実践交流会	10月2日	会場：忠類小
	校内研修に関する情報交流	随時	「言語活動」「道徳」
指導部	生徒指導交流会の実施	未定	
	花いっぱい運動	6月11日	小1、中2
	小中共通の「生活のきまり」作成		
	小中合同交通安全街頭指導	未定	
保体部	小中合同「新体力テスト」	7月中	小5～中3
	小中合同AED研修	8月16日	
	栄養教諭による食育授業	随時	各学年1回程度
	小学校スキー授業サポート	2月	中学校教員
	小中連携体育科授業	年3回程度	外部講師の活用
事務局	備品等の交流・共有	随時	

## アスリートと創るオリンピックの町創生事業一覧表

	事業名	実施時期	実施主体	事業概要	事業費 (千円)
1	スポーツ合宿・大会の一元的な受入環境の基盤づくり及び町の情報発信				3,320
(1)	慶應義塾体育会野球部合宿 (運動公園野球場)	8/2 ～8	誘致実行 委員会	昨年度に引き続き、慶應義塾体育会野球部から町内で合宿を行いたいとの意向があることから、地域との交流活動を行いながら、交流人口の拡大や地域のPR等を行うもの。	1,800
(2)	車いすラグビー日本選手権 予選会の誘致・開催 (札幌スポーツセンター)	7/27 ・28	誘致実行 委員会	障がい者スポーツへの興味関心の喚起と東京オリパラの機運を高めることを目的として、「車いすラグビー」の日本代表予選会を誘致及び開催する。	1,520
2	運動・スポーツを支える人材の育成				200
(1)	部活動・少年団の指導者育成 支援事業	11月	施設指定 管理者	中学・高校の部活動やスポーツ少年団活動の教職員及び指導者に対して指導能力の向上等を目的とした研修会を実施し、各活動の振興を図る。	200
3	農畜産物と運動と健康に関する調査研究				200
(1)	オリンピック輩出要因分析に 関する事前協議	通年	町	オリンピック輩出要因を様々な分野(環境、食、施設、人的要因など)で研究を行い、その調査結果等を基に更なる育成につなげる事業を展開するための事前協議を行う。	200
4	スポーツを核としたまちづくり検討会の開催				660
(1)	オリンピックの町ワークショップ	通年	町	今後のスポーツを軸とした町の施策に対する意見を把握するとともに、行政と接点の少なかった町民のまちづくりへの参画を促すためワークショップを開催する。	660
5	町出身アスリートや専門人材を活用した健康プログラムの展開				9,380
(1)	オリンピックレガシー展示事業 (スポセン・トレセン)	通年	町	子どもたちが将来への夢や希望を抱く機会を与えるとともに、交流人口の拡大や地域のPR等を行うものとして、オリンピックの功績やメダル等を紹介・展示する。	6,500
(2)	オリンピックによる指導教室	調整 中	施設指定 管理者	オリンピックによる技術面の指導教室を行い、競技力の向上を図る。 (高木姉妹によるスケート教室を予定)	610
(3)	オリンピックふれあいイベント	10月	町	町内出身のオリンピック選手と町民との交流を通じて、オリンピックやスポーツへの興味・関心を持ってもらうことを目的とする。 (現役オリンピック5名を対象)	1,250
(4)	フィジカル測定とチャレンジスポーツラリー事業	10月 月上旬	施設指定 管理者	様々なスポーツで必要となる能力(脚力・蹴る力・投げる力等)を測定し、その能力にあったスポーツを体験することで、そのスポーツの興味を惹きだす。	1,000
(5)	バルシューレ教室	4/6	町	乳幼児期から体のバランス・運動習慣を身に付けることが健やかな成長に必要なものであることから、児童が楽しく関わり、基礎運動能力・社会性・思考性・自発性を養うボール教室を実施する。	20
合計					13,760

## アスリートと創るオリンピックの町創生事業

### 1 スポーツ合宿・大会の一元的な受入環境の基盤づくり及び町の情報発信

#### (1) 慶應義塾体育会野球部合宿

- ① 合宿日程 令和元年8月2日(金)～8日(木)【6泊7日】
- ② 練習会場 幕別運動公園野球場(日中)、トレセン他(雨天時)
- ③ 宿泊場所 幕別温泉パークホテル悠湯館(朝・夕食提供)
- ④ 受入人数 40～45人(予定)
- ⑤ 内容(案)
  - ・練習会場の一般見学開放
  - ・地元住民とのパークゴルフ体験 【8/4(日)PG家族大会へ参加】
  - ・町内の小・中学生を対象とした野球教室 【8/5(月)13:00～運動公園】
  - ・監督、主将による講演(野球部の紹介等) 【8/6(火)19:00～コミプラ】
  - ・練習試合 東海大学北海道キャンパス 【8/7(水)12:00～町営球場】
  - ・練習試合 北海学園大学 【8/8(木)10:00～町営球場】

#### (2) 車いすラグビー日本選手権大会予選リーグの開催

- ① 大会日程 令和元年7月27日(土)・28日(日)【2日間】
- ② 大会会場 札内スポーツセンター
- ③ 宿泊場所
  - ・リッチモンドホテル帯広駅前(朝・夕食提供)【選手等51人】
  - ・十勝幕別温泉グランヴィリオホテル(朝・夕食提供)【連盟スタッフ18人】
- ④ 参加チーム
  - ・SILVER BACKS(北海道)
  - ・TOHOKU STORMERS(東北)
  - ・Freedom(高知県)
- ⑤ 内 容
  - ・車いすラグビー日本選手権大会予選リーグの開催  
(地元特産品、授産製品PRブースの設置)
  - ・パラリンピック競技体験(車いすラグビー)
  - ・パラリンピック選手「三阪 洋行」氏とのふれあい事業

### 2 運動・スポーツを支える人材の育成

#### (1) 部活動・少年団の指導者育成事業(施設指定管理者委託事業)

- ① 開催時期 令和元年11月以降で調整中
- ② 開催場所 札内スポーツセンター(予定)
- ③ 講 師 日本体育大学指導者等
- ④ 対 象 者 中学・高校の部活動顧問、少年団活動の指導者等
- ⑤ 内 容 今年度は総合的な内容(指導方法及び姿勢等)

### 3 農畜産物と運動と健康に関する調査研究

#### (1) オリンピアンへの輩出要因分析に関する事前協議

- ① 協議時期 調整中
- ② 協議内容 日本体育大学の担当者と来年度実施する本調査に関わる分析テーマの事前協議と現地調査の実施

### 4 スポーツを核としたまちづくり検討会の開催

#### (1) オリンピアンへの町ワークショップ

##### ① 第4回町民と考えるオリンピックの町ワークショップ

- ・日 時 令和元年4月23日(火) 18:30~21:05
- ・場 所 札内コミュニティプラザ
- ・出席者 メンバー3人、大谷短大2人、オブザーバー5人(体連会長、スポーツ推進委員長、幕別札内スポーツクラブスタッフ、十勝トランポリンスタジアムフーニ代表、FM-JAGAパーソナリティー)  
傍聴者13人(町民7人、町外4人、報道2人)  
合計23人
- ・話し合いのまとめ(目指すべき方向)
  - 1) 子供達のスポーツを支える
  - 2) スポーツをするきっかけづくり
  - 3) オリンピアンを応援する環境
  - 4) 「アスリートと食」をまちづくりの中心に据える
  - 5) みんながスポーツに触れやすい環境

##### ② 第5回町民と考えるオリンピックの町ワークショップ

- ・日 時 令和元年6月29日(土) 13:30~16:00
- ・場 所 札内コミュニティプラザ
- ・出席者 メンバー5人、大谷短大1人、オブザーバー5人(体連会長、スポーツ推進委員長、幕別札内スポーツクラブスタッフ、十勝トランポリンスタジアムフーニ代表、FM-JAGAパーソナリティー)  
傍聴者39人(町民10人、町外27人、報道2人)  
合計50人
- ・内 容 第4回まで話し合った目指すべき方向の提案書の確認と幕別町が5年後に「オリンピックによる町」と言われるために、今後どのような状態にしていけば良いのかを、議論をした。
  - 1) 多くの人々がオリンピックとの親近感を持つことで、現役オリンピックが5人いることの強みをこれまで以上に町民全体で共有し、常にオリンピックを「応援する」雰囲気醸成しよう!
  - 2) 送迎や金銭面などでの保護者のサポートを中心として子どもたちのスポーツを支えよう!  
「(競技に打ち込むための)金銭面の課題を解決するため、アスリートレシピに



付加価値を付けられないか」

- 3) オリンピアンが5人いる「今」を活用してスポーツを「する」きっかけ、動機をつくろう！

「生涯スポーツの観点が必要」「町民の健康づくりと連携させてはどうか」

- 4) 体育館などの運動施設の使い方を見直して、子どもから大人までみんなが運動やスポーツしやすい環境をつくろう！

- 5) 幕別町からオリンピアンが多く出ている要因の分析を本格的に始めながら、「アスリートと食」を幕別町の中心に据えよう！

「食とつなげると幅広く関心を集めやすい」

## 5 町出身アスリートや専門人材を活用した健康プログラムの展開

### (1) オリンピックレガシー展示事業

#### ① 冬季オリンピック出場者

- ・平子美佐江さん S43年(1968) グルノーブル (スピードスケート)
- ・肥田 隆行さん S43年(1968) グルノーブル (スピードスケート)  
S47年(1972) 札幌 (スピードスケート)
- ・篠原 雅人さん S59年(1984) サラエボ (スピードスケート)
- ・高木 美帆さん H22年(2010) バンクーバー (スピードスケート)  
H30年(2018) 平昌 (スピードスケート)
- ・高木 菜那さん H26年(2014) ソチ (スピードスケート)  
H30年(2018) 平昌 (スピードスケート)

#### ② 夏季オリンピック出場者

- ・福島 千里さん H20年(2008) 北京 (陸上)  
H24年(2012) ロンドン (陸上)  
H28年(2016) リオデジャネイロ (陸上)
- ・山本 幸平さん H20年(2008) 北京 (マウンテンバイク)  
H24年(2012) ロンドン (マウンテンバイク)  
H28年(2016) リオデジャネイロ (マウンテンバイク)
- ・桑井 亜乃さん H28年(2016) リオデジャネイロ (女子7人制ラグビー)

#### ③ 展示場所 札内スポーツセンター・農業者トレーニングセンター

### (2) オリンピアンによる指導教室(施設指定管理者委託事業)

- ① 開催時期 帯広合宿期間で調整(8/17、9/14、9/21で調整中)
- ② 開催場所 札内スポーツセンター(予定)
- ③ 講師 高木姉妹によるスケート教室を予定
- ④ 内容 氷上ではなく陸上トレーニング等の指導を予定

### (3) オリンピアンふれあいイベント

- ① 開催時期 10月下旬で調整中
- ② 開催場所 スマイルパーク(予定)

③ 出演予定 現役オリンピック5名を対象

(4) フィジカル測定とチャレンジスポーツラリー事業（施設指定管理者委託事業）

① 開催日時 令和元年10月6日（日）午前中で調整

② 開催場所 札内スポーツセンター、まくべつ産業まつり会場の一部

③ 内 容 様々なスポーツで必要となる能力（脚力・蹴る力・投げる力等）を測定し、その能力にあったスポーツを体験する。

(5) バルシューレ教室

乳幼児期から体のバランス・運動習慣を身に付けることが健やかな成長に必要なものであることから、児童が楽しく関わり、基礎運動能力・社会性・思考性・自発性を養うボール教室。

① 開催日時 令和元年4月6日（土）10:00～11:30

② 開催場所 札内スポーツセンター 武道場

③ 参加人数 34人